

2017年レント集会～「十字架と神の国」～

第5回「十字架に進むイエス」マタイ 26:47-75

1) 背景

(ア) 「神の国」って何？

「神の国」＝「神の支配」＝「神の愛の支配」＝「神の愛に満たされること」

「神の支配」自体でもあり、
神の愛が溢れている場所でもあり、人でもあり、人の集まりでもある。

「神の国」は「死んだあとに行く天国」「やがてくる永遠の神の支配」だけではない。
・・・今ここからはじまる。始まっている。

(イ) 当時のユダヤ人の「神の国」への期待。

「神の支配」に対するその時代の考え。

ユダヤ人・・・どうして私たちはこんなに苦しむのか？

・・・バビロン、ペルシャ、ギリシャ、シリア、ローマの支配下におかれる

→神の支配の下にあるならば、神が正しい裁きをしてくださる
異邦人の支配から私たちを解放してくださる。

～ここまでは全体の背景。～

(ウ) 最後の晩餐

→新しい契約の始まり。新しい国。新しい秩序（弟子たちの足を洗うイエス）

(エ) ゲッセマネの祈り

→父なる神の支配に身を委ねるイエス

・・・私たちの模範としての祈りの姿。私たちのための贖いへの決意。

2) 逮捕されるイエスの表す神の国

(ア) この世の国

① ユダの接吻

愛と親しみを込めた挨拶の裏に、剣と棒を持っている人々。

・・・この世の国の象徴。

② ペテロの剣

剣と棒を持って来る人々に対して、剣で対抗する。

⇔平和の王として来られたイエス

(イ) 神の国

天からの 12 軍団を呼び寄せることができる。

しかし、敢えてそれをしないこと。

・・・聖書の預言の成就・・・イザヤ 53 章、詩篇 22 篇の成就。

2) 裁判の中のイエスの表す神の国

(ア) 「わたしがそれである」(マルコ 14:62)

・・・”I am”・・・神がご自身を呼ばれる名前→「神を汚す言葉だ！」

イエスを神とするか、伝統や既得権を守るか？

・・・当時のユダヤ人指導者たちは後者を選んだ。

(イ) 「人の子が神の右に座し、天の雲に乗って来るのを見る」

・・・イエスの再臨の預言。・・・神の国の完成。

3) ペテロの否定と神の国

ペテロがイエスを 3 度知らないと言う。

・・・頑張って「どこまでもイエスについて行きます」という決意ではなく、
砕かれた心、自分の弱さを知り、神の前に泣く者うちに神の愛が満たされる。

→ここに神の国が生まれる。

ゲッセマネの祈りとこのペテロの涙・・・神の支配、神の愛の支配に身を委ねる。

自分の弱さを知り、聖霊の満たしを経験したペテロは命をかけてイエスを伝える。

・・・使徒行伝 4:19-20